

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業（やすらぎ・いたわり）

「発達障がいを持つ子どもの自立支援『あじさいキャンプ』」事業

自然体験を通じて発達障がいの子どもたちに自立を促すとともに保護者の悩みを共有

神戸市東灘区と芦屋市を拠点に、総合型地域スポーツクラブを運営するNPO法人アスロンでは、2014年に六甲山にある「神戸市立自然の家」の指定管理者となった。これにともない、それまで神戸市スポーツ教育協会が行っていた発達障がいの子どもたちを集めた「あじさいキャンプ」を引き継ぐ形となった。より充実したキャンプの実施に、AJOSCの助成が役立てられた。



「あじさいキャンプ」に参加した子どもたち



「あじさいキャンプ」への参加を募集するチラシ

発達障がいの子どもたちとその保護者が自然の中のキャンプで日常を離れた体験

「コミュニケーションの困難さや周囲の無理解から、発達障がいの子どもたちは誤解されたり、奇異な目で見られたりして、日ごろ、ストレスや孤立感を感じています。そんな子どもたちに自然体験を通じて、安心して楽しく過ごせる時間を提供するのが『あじさいキャンプ』です。また、そうした子どもたちの保護者は、子どもの現状や将来に対して不安や悩みを抱えています。キャンプ中に大学の先生などの専門家に相談したり、保護者同士の交流を深めることで安心することができます」。

アスロン代表の井原一久さんは、あじさいキャンプの目的についてそう話す。そのあじさいキャンプだが、神戸市

立自然の家を会場に日帰りのデイキャンプと、1泊2日で行われるチャレンジキャンプがある。どちらも発達障がいのある小中学生とその保護者が参加対象だが、キャンプ中は子どもたちと保護者は別行動となる。

子どもたちは世話係となる大学・短大生ボランティア（キャンプや野外活動のリーダーを務める「神戸市ジュニアリーダー」という団体の所属メンバー）と一緒に、アーチェリー、カヌー、コミュニケーションゲーム、森の散策、飯盒炊きなどを体験する。また、保護者は専門家による講習、交流会などに参加する。それによって、子どもにとっては自立に向けた親離れ体験、保護者にとっては子離れ体験ということにもなる。昨年度は、8月に実施されたデイキャンプに親子21組、10月のチャレンジキャンプには親子14組が参加した。

子どもたちだけのスペシャルキャンプや冬の遊び、運動会など活動の幅が広がる

この2つのキャンプに加え、アスロンでは昨年度、AJOSCの助成を活用して、新たな試みとなるスペシャルキャンプを5月に実施した。これは、原則、前年度のデイキャンプやチャレンジキャンプの経験者を参加対象にするもので、保護者同行ではなく、子どもたちだけでジュニアリーダーと一緒に神戸市立自然の家で1泊2日のキャンプをするというものだ。小学3年生から中学生までの子ども28名が参加し、自己紹介ゲーム、カヌーやアーチェリー、野外炊きなどを体験した。

このキャンプについて井原さんは次のように語る。「参加者の固定化、子どもが成長して参加しなくなることでお手伝いして下さるお母さんが減ってしまう、事前に研修会を

行っても子どもの対応に不慣れなジュニアリーダーが若干いるなどの課題はありますが、今後、あじさいキャンプを継続していくうえで、新しいチャレンジができたことはいい経験になりました。子どもたちだけでキャンプをしたことに、送り出した保護者の方々からは快挙だという声がありましたし、子どもたちも自信を深めたようです。また、このスペシャルキャンプに加え、冬にはスケートや雪遊び体験、さらに、3月には運動会も実施できました」。

今後は、「一般の人々に発達障がいについて理解してもらうための勉強会を開いたり、発達障がいの子どもたちが将来的に就業などを通じて社会参加できる仕組みづくりやモデルづくりにも挑んでいきたい」と、井原さんは話す。まだまだ壁は高いであろうが、社会的に意義のある有用な取り組みに期待したい。



小学3年生から中学生までの子ども28名が参加



森の散策など子どもたちにとって貴重な体験を実施

助成団体: 特定非営利活動法人 アスロン

<http://www.athlon.jp>



キャンプに参加する子どもたちや保護者が喜ぶ顔に事業の意義を感じて

あじさいキャンプ事業全般の運営資金、キャンプ参加費を低く抑えるための資金などに、助成を活用させていただきました。さらに、これまでまったくの手弁当り持ち出しでご協力いただいた大学の先生や支援者の方々などにも、多少ながら謝礼金をお渡しすることができました。活動の幅が広がり、今後の活動継続に向けた体制の再構築にも役立ちました。感謝申し上げます。

NPO法人 アスロン
代表 井原 一久さん